

公民館部会は、第1回(10/15)、第2回(12/17)ともに対面会議で開催しました。

今年度は新型コロナウイルス対応のため、部会の開催が不定期であったことから、協議事項は「町民の学びを支える公民館のあり方について」とし、公民館に関して委員が感じることを広くご意見をいただきました。様々なご意見をいただきましたが、的を絞らないと話がしにくく、部会として協議の成果が出せないとの意見もありました。

また、令和元年度の公民館部会の協議をもとに令和2年4月に発行を予定していた公民館利用ガイドが、新型コロナウイルス対策により公民館の臨時休館や事業中止になったことから発行を延期しております。令和3年4月に発行に向けて、今年度の公民館部会でもあらためて意見をいただきました。

町民の学びを支える公民館のあり方について

① 公民館施設の印象について

- ➡公民館に親しみやすい愛称をつける
- ➡施設の利用を増やすためには利便性を高める修繕が必要

(委員意見)

- 公民館という名前も戦後のままでのようで古臭く感じる。愛称など他のネーミングをつけてはどうか。
- 町の公共施設総合管理計画では公民館をこれから16年間持たせるようだが、メンテナンス費用をどう見ているのか。現在の公民館は建設以来、手を入れておらず、相当老朽化している。以前から雨漏り、ドアが閉まらない、トイレの設備が悪いという指摘がある。施設の利用はできても、あそこは臭いとか、雨漏りするから嫌だというような話が出る。利用にあたっての利便性もしっかり考えておかないといけない。

② 公民館利用を促進するための方法について

- ➡利用しない人の意見を取り上げる方法の工夫が必要
- ➡子どもも使いやすい施設であれば、大人になっても利用する意識に繋がる
- ➡地域に公民館があることやどのようなことを行っているか認知を高めることが必要
- ➡掲示板やホームページの活用、公民館利用ガイドの発行

(委員意見)

- 寒川の場合はどちらかというと生活に追われている方が多い、余裕がないという印象を受ける。町民の無作為抽出のアンケートでは7割近くの方が公民館を利用していない結果が出ているため、どうやって伸ばしていくか、非常に大きなテーマだと思う。
- 町のアンケート調査はただ調査用紙を送るだけでは回収率が上がらない。難しいかもしれないが、回収率を上げるために粗品をつけるなど工夫して発掘していかないと伸びていかないと思う。公民館を利用していない人をどうするかというのは非常に大きな問題であり、理由はそれぞれあると思うが、要は来てくれない人の意見をどう取り上げるのかが課題である。

- 小学校、中学校では体育館のスポーツ開放をしているが過密な状態なので、公民館でも何か体を動かすもの、仲間づくりができるスポーツを入れてはどうか。これからの未来を生きていく子ども達を呼べるような環境づくりや何気なく立ち寄れるような雰囲気など、行ってみようと思えるような場所とすること、学習だとかバドミントンのようなスポーツを含めて、子ども達が放課後行けるようなものを増やしていくことが大切だと思う。やがてはその子ども達が大人になっても公民館へ行ってみようということに繋がる。
- 昔から地域に婦人会や老人会というのがあったが、役員をやりたくないというところから活動がだんだん無くなり、結局、一人暮らしの老人や、マンションに一人住んでいるような人が家からでなくならないように、民生委員がマンションの1階のロビーを使ってサロンを開いているというのを聞いたことがある。今はそこまでしないと、1人になってしまうのかということを感じて、すごくショックを受けた。やはり人が外に出てきて集える環境があると良い。
- 公民館でサークル活動をしているが、会員が減少しており、少子高齢化を感じる。公民館を利用しようと思っている時期、例えば最近では定年が65歳になるが、次に何をしようかと思った時に、そこから色々考えると67歳くらいになっていて、気が付くとすぐ70歳になっている。70歳から新しいこと始めようと思う人は少ない。若い人は公民館活動しようと思っても、仕事に追われて、子育てに追われて、なかなかできない。このようなことからサークル活動は非常に難しい。サークル活動をPRするのに公民館まつりは効果的なので、土日2日間開催の週を伸ばしたり、2～3回行ったりしてはどうか。公民館まつりは地域のためでもあり、重要な問題だと思う。
- コロナの状況でテレワークが増えている。自宅で仕事をする方には時間の余裕ができて、公民館利用も期待もできるのではないかな。
- 今まで遠くに出かけていたような人が地域の活動に注目してくれるようになったと思う。地元で長く住んでいるという人と話をする機会があり、友達が寒川に来た時に案内するところが寒川神社のほかに何かあるのかと聞かれ答えられなかったと言っていた。歴史のこともあるが、町内に施設があることすらも知られてないと感じた。どうやってPRをしていくかも必要。
- 町の掲示板が以前に比べると活用率がとても高くなった。積極的に公民館の講座をPRしている姿勢はとても良いとは思いますが、自分たちの団体でも掲示板を利用しようと思うと張れないことが結構ある。掲示板がもっと利用しやすくなると、せっかく地域で活動している人々もPRできない。
- いろいろな形で広報やホームページやポスターなど見る機会があるので、本来はもっとホームページの利用が増えるといいと思う。
- 昨年度の公民館部会の成果物として公民館ガイドの発行を予定していたが新型コロナウイルスの対応で延期となっている。この4月に発行予定ということで、楽しみにしており、それが公民館の活性化にも繋がるとよい。
- 公民館利用ガイドは、一度は出してみることは大切だと思う。ただし、表紙は最初に手に取る時の印象になるため重要である。まずは手に取ってもらえないと、中を見てもらえない。

③ 公民館講座について

- ➡各館の公民館講座に指標を設ける
- ➡講座タイトルを工夫する
- ➡勤労者もターゲットにするために、参加したくなる魅力的な内容や時間帯の工夫が必要
- ➡初めて利用する人に向けて「仲間づくり」を目的とする講座やサークル化につなげる工夫が必要
- ➡過去に人気のあった講座は再度取り上げて実施する

(委員意見)

- 公民館講座は各館で何か指標があるとよい。
- 講座のタイトルに古くささを感じる。大学の先生の話などは聞いてみるとおもしろいが、タイトルを見ただけでは興味がわからないものもある。タイトルだけで集客が違うので工夫が必要。
- 「お父さんのための体力測定」は申込者0人だったことはどのあたりが申し込む意欲がでないか気になる。時期やタイトルも重要となるが、親子で体力測定なら関心を持ってもらえたのではとも考える。祝日開催は、最近は祝日でも休みではない勤労者も多い。「お父さんの」となると参加しにくいけれど、「パパと歩こう」と若い親子を意識したタイトルにすることや、リトミック系なども親子で一緒にやるような内容もいいと思う。
- 公民館でもいろいろな講座を行っており、とても良いと思うが募集人数が少ないものは、申し込む気がひいてしまうところもある。
- コロナ禍において、人に会えないとなると、逆に人に会いたいと思うようになっており、公民館というのはやはり人と人が出会って仲間づくりをしていく場であってほしいというのを感じている。公民館の講座には、必ず「仲間づくり」というのが書いてあり、仲間づくりができる場所、人と出会う場所が公民館であってほしい。公民館の推進員をしていた時に料理教室の参加者から、最近寒川へ引っ越してきたので友達も全然おらず、知り合いを作りたいと思って、今日の料理教室に参加したという言葉聞いて、やはりそこで仲間づくりを期待している人もいることを忘れてはいけないという気がした。そうすると、やはり魅力のある講座づくりも大事である。募集を見ていて、出たいと思って働いている人には無理な時間帯もあり、夜間開催など時間帯の検討も大事なのではないかと思う。
- 私も公民館はこれまで利用してなくて、仕事を退職して、生涯学習推進員になってから、公民館でいろいろな講座をやっていることを知った。そこで何とかして足を運んでもらいたいと考えて、来やすい講座を考えて、スポーツ吹き矢とノルディックウォーキング、裂き織り講座をサークル化に繋げた。新しい講座を企画して、それがサークル化できるような楽しい講座があるといい。
- スポーツ系は人気があるので、ニュースポーツなどをきっかけに公民館に足を運んでもらえたらと思う。歴史講座などは男性の参加も多いので、過去をさかのぼって、こういう講座なら人気があるというのを取り上げ、手を変え、品を変えて、男性が足を運ぶきっかけを増やす。
- 昨年度は公民館講座を開催してくれたおかげでサークルの会員が5人増えて、効果があった。

④ 地域でのサークル活動等について

- ➡ 団体に入ることは面倒であるという気持ちの原因を探る
- ➡ 新しく参加する人が委縮したり、疎外感を感じなくしたりすることが必要
- ➡ 地域に仲間がいて、活動が楽しいという気持ちを高める工夫をする
- ➡ 公民館サークルの認知を高める工夫をする

(委員意見)

- ボランティアガイドをしているが、男性は実際にガイドを担当してもらおうとするとしり込みする方が多い。女性の力に頼っている状況がある。知り合いや地元の会社に勤めていた方にも聞くと、一人で調べたり散策したりするのはいいけれど、団体に入って、人間関係のわずらわしさは面倒だと言われる。何かの活動に出かけると、同じような顔ぶれが多く、重複した人が活動していることを実感する。
- 公民館サークル紹介は冊子を作成しても、利用してもらうためにはいかに周知徹底させるかが重要であり、ただ公民館に置いておくだけではだめである。
- サークルもせっかく新しい人が見に来て、受ける方がウェルカムでないと、来た人が孤立してしまうと個人的には思う。活動の長い団体の活動を見に行った時に、見学に来た人などに指導をせず、ただ見させているだけになると、もう来ないのではないかと思った。
- 団体活動もコロナ禍で集まる機会が一切なくなり、仲間が家で元気に過ごしているか心配だった。先日、フラワーアレンジメント教室をやったところ、見込んでいたより多い申し込みがあり、広い部屋に変更して実施した。受付で熱を測ったり、徹底的に消毒したりと気を付けながらも、やっぱり家に閉じこもっているよりも、少しでもみんなの顔が見たいと思ったようで喜んでいた。これまでは活動がわずらわしく感じることもあっただろうが、人のつながりの大切さが実感できたと思う。